

初夏の干潟

■河口に多いイシガレイの稚魚

4月と同様、今回の調査でもイシガレイの稚魚は七北田川河口で多く採集された。干潟内で採集したのは2個体のみであり（採集場所についてはレポート86号Fig.1参照）、稚魚の多くは七北田川河口域で成長していると考えられる。採集した稚魚は全て放流している。

今回の調査では41匹の稚魚を採集し、最小の個体は1.5cm、最大(Fig.1)は5.5cmであった。平均全長は2.55cmである。3月からの平均全長(Table.1)の推移を見ると、河口域で順調に成長していると思われる。

採集日	採集数	平均全長
3月20日	23	1.70cm
4月18日	32	2.09cm
5月11日	41	2.55cm



Fig.1 イシガレイ最大の個体

Table.1 3月からの平均全長
 なお、干潟内の橋脚付近ではギンポ(Fig.2)やヌマチチブ(Fig.3)の生息が確認された。



Fig.2 ギンポ



Fig.3 ヌマチチブ

■コメツキガニのにぎわい

干潟の砂地ではコメツキガニの活動が活発になっている。広い範囲で巣穴や餌をとったあとの砂団子が観察できる。写真でもわかるとおり、みごとな保護色である(Fig.4)。

一方、チゴガニやヤマトオサガニの生息は確認することはできなかった。昨年の生息場所(レポート72号Fig.1参照)は乾燥傾向にあるように見受けられる。晴天が続いた影響も考えられるので、来月以降の調査で確認していきたい。

南に面した、日当たりの良い場所ではハマヒルガオが花を咲かせていた(Fig.5)。ハマヒルガオは肉厚な葉を持ち、震災前の蒲生干潟に広く分布していた。まだ数は少ないが植物も少しずつ回復していると思われる。



Fig.4 コメツキガニ

(佐藤 賢治)



Fig.5 ハマヒルガオ